

中学校通級指導学級の通学区域（指定校）について

<最終報告書>

明保中学校通級指導学級開設に向けた
通学区域等の検討会議

平成 29 年 8 月 10 日

1 はじめに

西東京市では、市内の通級指導学級について、総合計画や教育計画、教育支援推進プランに基づき、個のニーズに応じた特別支援体制の構築を目指し、通級指導の充実に取り組んできました。

平成 22 年度には、市内 1 箇所目となる中学校における情緒障害等通級指導学級（K組）を田無第二中学校に開設しました。

しかしながら、昨今の指導対象生徒数の増加に伴い、施設環境に課題が生じていることから、平成 30 年度、新たに明保中学校に情緒障害等通級指導学級（K組）を新設し、更なる特別支援教育体制の充実に図ります。

2 計画の位置づけ

■西東京市第 2 次基本構想・基本計画（平成 26 年度～平成 35 年度）

【創 1-3-2 特別支援教育の充実に努めます】

社会全体の発達障害に対する認知度の高まりや子どもの情緒面の問題に対応するための特別支援学級における、知的障害、自閉症、情緒障害の教育の充実に図る。

■西東京市教育計画（平成 26 年度～平成 30 年度）

【知的障害教育・自閉症教育・情緒障害教育の充実に努めます】

対象となる児童・生徒数の状況を踏まえ、特性に応じた教育を実現する特別支援学級のあり方を整理し、市内でのバランスなどを総合的に配慮しつつ、学級開設整備の検討を行っていきます。

■西東京市教育支援推進プラン（平成 26 年度～平成 30 年度）

【多様な教育資源の充実に努めます】

中学校「通級」の増設について検討していきます。

■公共施設の適正配置等を推進するための実行計画（平成 28 年度～平成 30 年度）

【本実行計画期間中における取組の概要】

特別支援学級については、指導生徒数の増加への対応及び通学の利便性の向上のため、平成 30 年度の通級指導学級の新規開設を検討します。

3 新設校の選定

新設校の選定については、生徒数や学級配置のバランス、教室の確保、登下校時の校内導線、市内の公共交通環境などを総合的に検証した結果、平成 27 年度第 1 回教育支援推進委員会において、明保中学校に通級指導学級を新設することとしました。

4 中学校通級指導学級の生徒数

入級状況が安定してきた平成 24 年度から、約 1.5 倍に生徒数が増加しており、施設の状況などから適切な指導を行うためには、1 学級 25 名程度を上限とした改善が必要であると考えられます。

田無第二中学校（K組）生徒数の推移

※3月1日時点の生徒数

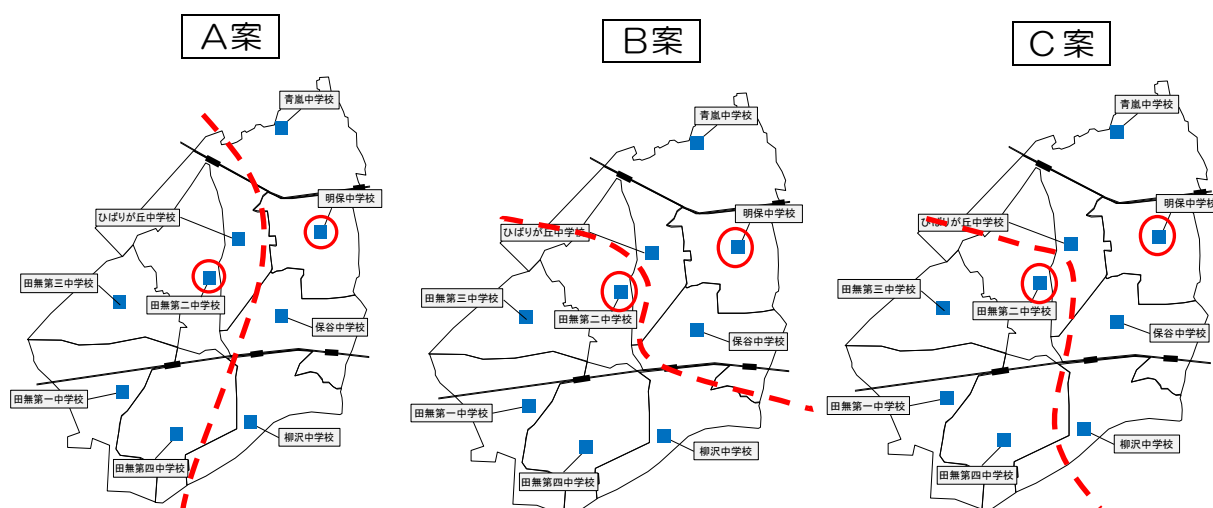
H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
5 人	15 人	22 人	31 人	31 人	29 人	32 人

5 通学区域（指定校）の検討

■通学区域の検討パターン

以下の3パターンをもとに検討を行いました。

- ・ A 案：バスの運行や道路環境など交通の利便性の観点から区分した案
- ・ B 案：市内の北側地域と南側地域を区分した案
- ・ C 案：旧田無地域と旧保谷地域を区分した案



■生徒数バランスの検証

「A案」「B案」「C案」とともに、大きな偏りはありません。将来的な生徒数の変動を考慮しても、「4 中学校通級指導学級の生徒数」で述べた1学級25名程度の上限に対し、すべての案が一定程度対応可能なバランスであると考えられます。

※平成29年4月1日時点

パターン	指定校	在籍校	生徒数	バランス評価
A案	田無第二中	田無第一中、田無第三中、田無第四中、ひばりが丘中	15名	○
	明保中	青嵐中、保谷中、柳沢中	13名	
B案	田無第二中	田無第一中、田無第三中、田無第四中、柳沢中	15名	○
	明保中	青嵐中、ひばりが丘中、保谷中	13名	
C案	田無第二中	田無第一中、田無第三中、田無第四中	12名	○
	明保中	青嵐中、ひばりが丘中、保谷中、柳沢中	16名	

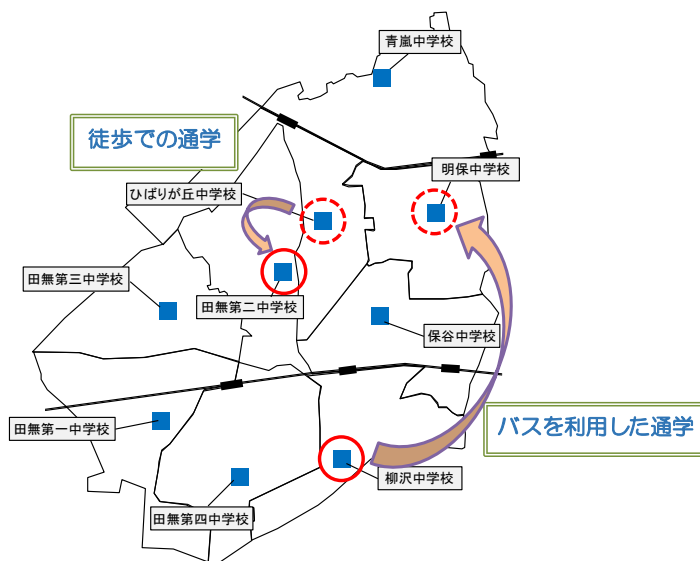
■公共交通環境の検証

「A案」「B案」「C案」の通学区域を比較すると、柳沢中学校とひばりが丘中学校をどちらの指定校にするかが課題となります。

二つの指定校への通学環境をそれぞれ検証すると、柳沢中学校については、明保中学校へ路線バスを利用する場合、西東京市コミュニティバス「はなバス」を含め複数の経路を選択することができるため適当であると考えられます。

一方、ひばりが丘中学校については、両指定校ともに徒歩での通学が想定されますが、距離的な視点から、田無第二中学校への通学が適当であると考えられます。

よって、公共交通環境の視点からは、3案中「A案」が最も利便性が高いと判断します。

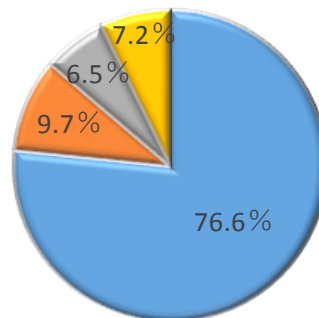


■保護者アンケート調査結果（資料1を参照）

- ・調査対象 中学校通級学級に入級されている生徒の保護者
小学校の特別支援教室（L・S教室）に入室している児童の保護者
- ・回答状況 配布数 193人 回答数 127人 回答率 65.8%

【質問】適当だと思われるパターンを選んでください。

パターン	回答数	回答割合
A案	95人	76.6%
B案	12人	9.7%
C案	8人	6.5%
未回答	9人	7.2%



【通学区域に関する主なご意見等】（計86件）

■ A案 ■ B案 ■ C案 ■ 未回答

項目	件数	主なご意見
指導面	13件	明保中に新設されることはよかったと思うが、二中のベテラン教員が異動してしまうのが不安である。
		二中と明保中の指導において、着任する教員や管理職の考え方によって違いが生じるのではないかと不安に思っている。
		入級前に明保中の先生と面談してもらえるのか。
エリア分け	15件	子どもたちが安全で通いやすいエリア分けがよい。
生徒への配慮	9件	子どもの性質上、ある程度信頼関係を築けてから自分の相談事等を話せるようになるので、途中で学校が変わることにとっても抵抗がある。是非柔軟な対応をお願いしたい。
今後の取組	12件	明保中だけでなくすべての学校に設置してほしい。
		西武新宿線の南側に開設されるととても助かる。
		先生が心身ともに元気に働ける環境整備は急務だと感じている。
肯定意見	12件	中学校の通級が増えることはとても良いことだと思う。
		田無二中と同じ指導方針ということで安心した。
不安	8件	二中と同じ雰囲気になるのか。子どもがなじめるか不安である。
		指定校が変更になることで、先生との相性が合うかが不安である。
		明保中と田無二中で、評価や先生方の対応等が異なるのではないかが不安である。
学校選択	5件	個々の事情に配慮して選択できるようにしてほしい。
通学方法	6件	二中や明保中から遠い人への配慮として、通学方法の提案をしてほしい。自転車可や車（自家用車）による送迎可など。
情報提供	3件	見学や説明会で様子や成果などを知ることができるとよい。
周囲の理解	3件	通級学級がこういったところか、生徒や保護者に説明する機会があるとよい。

6 新たな通学区域（指定校）について

生徒数については、「A案」「B案」「C案」ともにバランスがとれています。

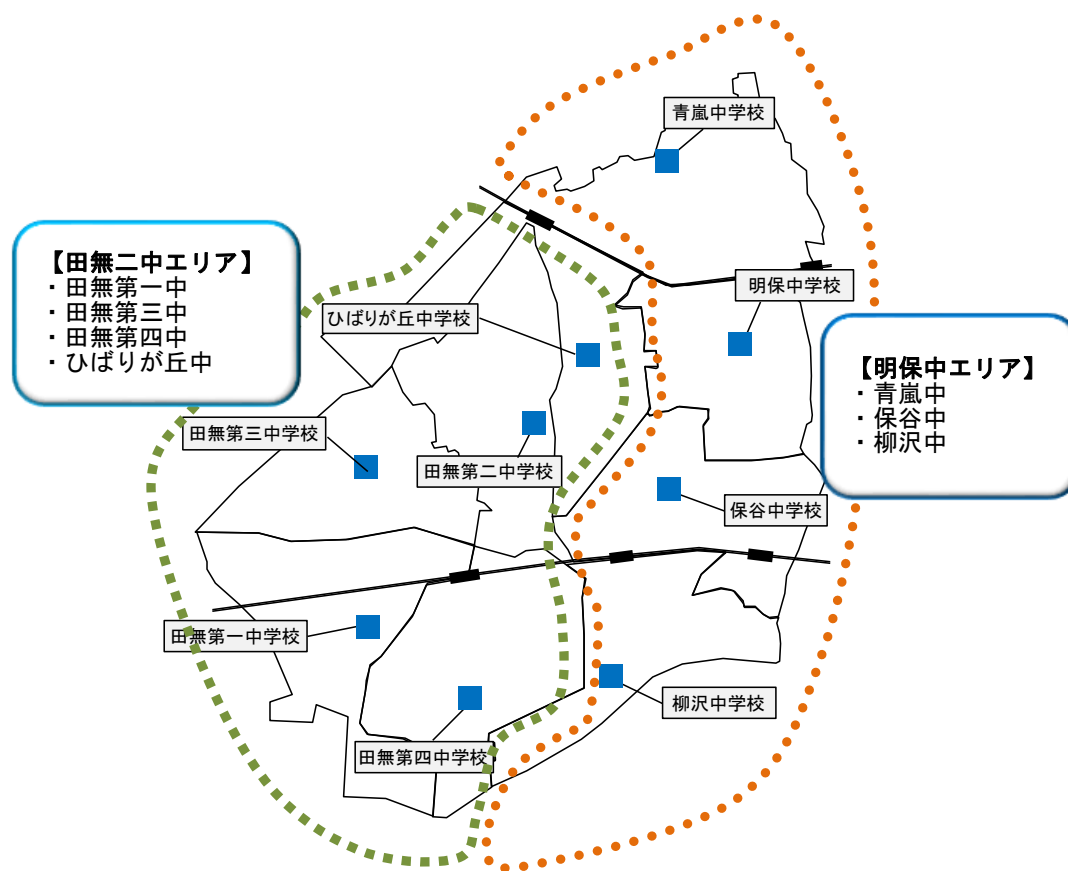
保護者アンケートの調査結果では、「A案」が全体の 76.6%となり、交通の利便性を重視したエリア分けを望む声が多いことが分かりました。

一方で、自宅の場所から指定校までの距離などの理由により、「B案」や「C案」を希望する声もありましたが、このたびの通学区域の検討については、自宅からの通学ではなく、在籍校と指定校（田無第二中・明保中）における相互の通学を前提としています。

以上の検証を踏まえ、本報告書の検討結果としては、生徒数のバランス、市内の公共交通環境、保護者アンケート調査結果等、総合的な視点から、平成 30 年度からの中学校通級指導学級の通学区域（指定校）は、バスの運行や道路環境など交通の利便性の高い「A案」が適切であると判断します。

なお、指導面については、田無第二中学校（K組）の指導内容を踏襲したうえで、両校が連携を図りながら、適切な指導体制を構築します。

【平成 30 年度からの通学区域（指定校）イメージ】



7 生徒の通学について

「6 新たな通学区域（指定校）について」で述べたのとおり、「A 案」が適切であると判断しますが、既に田無第二中学校（K組）に入級している生徒については、環境の変化などによる影響を考慮し、田無第二中学校（K組）または明保中学校（K組）を選択できるような配慮が必要です。

また、医師の診断など、特別な理由により通学区域の変更を希望する場合については、教育委員会に申請のうえ、可否を審査するなどの対応が必要です。

なお、通学手段については、安全面の観点から、これまでと同様に、徒歩若しくは公共交通機関の利用が原則となります。

8 明保中学校通級指導学級の開設スケジュール

日 程	内 容
平成29年9月～1月	教室等改修工事
10月	全体保護者説明会
平成30年3月	学校保護者説明会
4月～	通級指導学級の開設